

新緑のころの調査

調査のためのルールとマナー

2

調査に慣れてきたら、いよいよ水辺の生きものの調査の開始です。

調査に入る前に、やってはいけないことや、注意が必要なことなどをしっかり覚えておきましょう。

また、調査のために水辺に行くときは、

調査のしかたや生きものに詳しい大人の人といっしょに行きましょう。

●田んぼ

この時期には、田んぼには大切なイネが植えられているので、勝手に入らないよう注意しましょう。また、農家の人から了承を得た田んぼでも、そのまわりを歩くときは、大切なあぜを崩さないように注意しましょう。



●水路

田んぼに水を引くため、この時期にはたくさんの水が流れています。流れの速い水路は危険ですから、近寄るときは必ず大人の人といっしょに行きましょう。また、幹線用水路は特に危険ですから、絶対に近づかないように注意しましょう。



●ため池

ため池の中には、岸近くから急に深くなっているものもあるので、大変危険です。近寄るときは、必ず大人の人といっしょに行きましょう。



新緑のころの調査

魚介類・底生動物

2

生きものの調査にはいろいろなやり方があります。
ここでは魚介類・底生動物に関する代表的な調査方法を紹介します。
それぞれの場所、対象種にあった方法を選んでやってみましょう。

●タモ網を使う(魚介類・底生動物)

人が網の中に魚を追い込むなどしてつかまえる道具です。水路の底、河床などと隙間ができないように、なるべく先が直線になっているものを使い、調査は下流から上流に向かって行きます。タモ網は釣具店、ホームセンターなどで購入できます。



おもな使用道具 ▶ タモ網、長ぐつ(または胴長)、バケツまたはふた付バケツ、エアポンプ、手網

おもな記録用具 ▶ アクリル水槽、ホワイトボード、デジタルカメラ、記録用紙、記録用地図

●サデ網を使う(魚介類・底生動物)

人が網の中に魚を追い込むなどしてつかまえる道具です。特に底生魚や稚魚類をつかまえるのに有効です。網を固定し、上流部から足や手で追い込むようにして使います。釣具店などで購入できます。



おもな使用道具 ▶ サデ網、長ぐつ(または胴長)、バケツまたはふた付バケツ、エアポンプ、手網

おもな記録用具 ▶ アクリル水槽、ホワイトボード、デジタルカメラ、記録用紙、記録用地図

採捕の基本用具

④ 魚は温度の変化や酸素不足で死んでしまうので、ふた付バケツやエアポンプを使います。



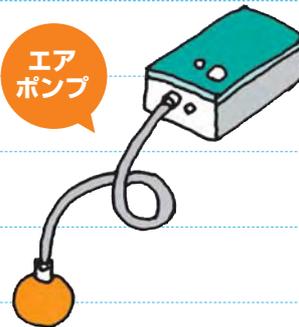
長ぐつ

ふた付
バケツ



(プラケースでも可)

エア
ポンプ



手網



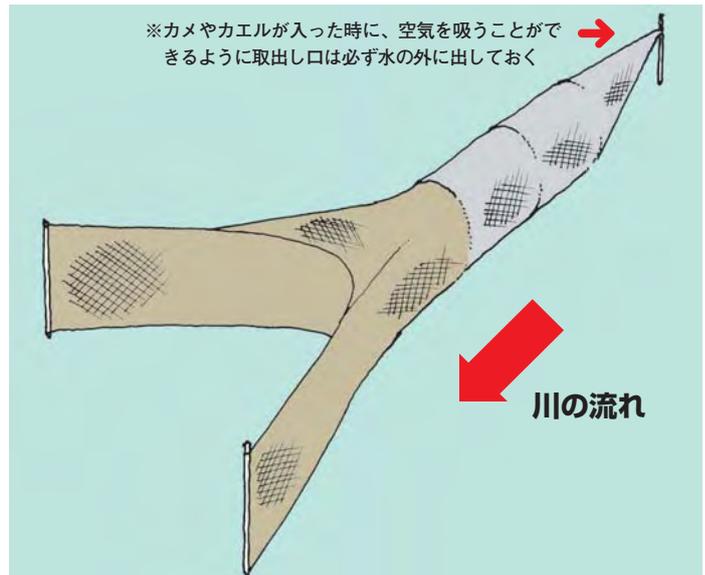
● 定置網を使う(魚介類)

水路の底に一定時間置いたままにして、移動する魚をつかまえる道具です。魚は夜に移動することが多いので、前日の夕方に仕掛け、翌朝に入った魚を取り出します。調査は、ゴミなどが引っかからず、網が流されないような条件のもとで行いましょう。釣具店などで購入できます。

※定置網は、都道府県の規則で禁止漁具となっていることが多いので注意しましょう。

おもな使用道具 ▶ 定置網、長ぐつ(または胴長)、「魚調査中」の標識、バケツまたはふた付バケツ、エアポンプ、手網

おもな記録用具 ▶ アクリル水槽、ホワイトボード、デジタルカメラ、記録用紙、記録用地図



生きものの扱いで注意したいこと

<生きものに負担を与えないように！>

カエルや魚などの生きものは、人間がむやみにさわると体の粘液やうろこがとれてしまい、けがややけどをしたような状態になってしまいます。生きものにとって人間の手はとても硬くて熱いものです。さわるときは、必ず手を水でぬらし、生きものに負担を与えないようにしましょう。



<さわったあとは手洗いを！>

生きものの中には、ヒキガエルのように体から毒を出すものもいるので、さわった手で目をこすったりしてはいけません。さわったあとは必ず手洗いをしましょう。

ここを
チェック

(調査許可のお願い、申請)

田んぼ、水路、里山などの場所には、それぞれ土地の所有者や管理者がいます。生きもの調査を行うときは、この人たちに連絡し、相談しながら調査をすすめましょう。

また、河川や水路で魚を捕まえる場合(漁具または漁法によって水産動植物を採捕する場合)には、公有・私有水面、漁業権設定などから、採捕許可が必要な場合もあります。必ず事前に調べておきましょう。わからないときは、地元自治体や各都道府県の農林水産課などの窓口へ聞いてみましょう。

調査の実施

2

新緑のころの調査

里山は新緑でおおわれ、南からの渡り鳥もやってきます。

田んぼでは水が張られて田植えが行われ、

水路は田んぼに引くための水が流れています。

この時期は調査の対象となる生きものがたくさん出現します。

里山での調査

この季節の生きもの調査でも、チョウと花の調査が重要です。また多くの鳥が繁殖するので、ラインセンサス法を使って、さえぎっている鳥の種類とその場所について調べ、記録しておきます。

ツツジの仲間

ミツバツツジ、ヤマツツジ、モチツツジなど林の中に見える種類では、林が暗くなると花が咲かなくなる。



エゴノキ 高さ3~10m



エゴノキもハクウンボクも5~6月に白い花を咲かせ、チョウやハナバチ、ニホンミツバチなどの蜜源となる。

ハクウンボク 高さ6~15m



ゲンジボタル 体長1.2~2cm

餌になるカワニナが生息でき、適度な栄養分がある流水にすむ。



アカシジミ

体長1.6~2.2cm 開張3.5~4.2cm

夕方になると出現する藍色のシジミチョウ。高いところを飛んでいることが多いので、見つけにくい。



キンラン 高さ30~50cm



林の中に見えるランで、4~5月ごろ、キンランは黄色、ギンランは白の花を咲かせる。林が暗くなると花が咲かなくなる。

ギンラン 高さ20~40cm



田んぼや水路での調査

生きものはそれぞれに特徴的な環境条件を必要とするものも多いので、種の記録と同時に、環境条件についても記録しておきましょう。

◎シギ・チドリ類

水田に渡ってくるのはムナグロ、キョウジョシギ、キアシシギなど。4月末~5月中旬に水が張られていることが必要。

◎ナマズ、メダカ、コイ、フナ類

水田内で見られたら水路から水田に入れる構造になっている証拠。

◎ショウブ

泥のある水辺や湿地に生える抽水植物。このほかヨシ、マコモなども生息しているかどうかを確認。

◎サナエトンボ類

ヤゴの生息環境として、水路底に砂があることが必要。

◎サギの仲間

ダイサギがいる水路は魚がいる証拠。チュウサギ、コサギがいる水田はドジョウやカエルが多い水田。アマサギがいない水田は魚が少ない。

トノサマガエル 体長6~9cm



仙台平野から関東平野を除いた本州、四国、九州、そして移入された北海道に生息。水路が三面コンクリート張りにされた水田地帯では減少している。水田害虫の天敵であると同時に、コウノトリやトキなど鳥類の重要な餌になっている。

メダカ 体長2~4cm

「イネ」という意味の学名を持つ、田んぼまわりの代表的な魚である。



ナマズ 体長50~60cm

川や池、湖の底にすみ、田植えが終わる5月中旬頃から初夏までに田んぼにやってきて卵を産む。



新緑

トゲウオの仲間 体長1.2~2cm



イトヨとトミヨに大別される。低水温で水質のよい環境（湧水など）にすむ。

ジュンサイ 葉身5~15cm



澄んだ沼などに生息している。若芽は食材として利用されるが、味はまったくない。

モリアオガエル 体長4~8cm



森の中や木の上にすむので見つけづらいが、4~7月に水面に張り出した枝に泡状の卵塊を産みつけるので存在がわかる。

ため池での調査

水生植物が葉を広げる時期なので、その調査を行います。沈水植物（クロモ、ヤナギモなど）や浮葉植物（ジュンサイ、ヒツジグサなど）が生えている池なら、水底まで酸素が供給されている証拠です。抽水植物（ショウブ、ヨシ、マコモなど）しか生えていない池では、水底は貧酸素状態になっている可能性があります。

水底が貧酸素状態だと、カラスガイやドブガイ、それらに産卵するタナゴ類はおすすめしません。そこで水生植物とともに貝類や魚類の調査も行います。夏のため池での調査（23頁）も参照してください。

谷津田での調査

この時期の谷津田では、流水の水路の生きもの調査を行います。それと同時に、湧水の有無、夏の水温、水質などの環境条件も調べておきます。それにより、そこにすむ生きものを保全するうえで留意すべき点などがある程度は判断できます。

水路にすむ生きもののほかに、土手の調査をします。ノアザミ、ホタルブクロなどが咲いていたなら、土手が管理され、草地としての機能が保たれている証拠です。この時期に咲く花はヒョウモンチョウ類などの大切な蜜源となります。

ホトケドジョウ 体長4~6cm

トゲウオ類ほどではないが、低水温で水質のよい環境（湧水など）にすむ。



ノアザミ 高さ60~80cm

アザミの仲間は秋に花を咲かせるが、ノアザミは5~8月に開花するめずらしいアザミ。



クロモ 長さ30~50cm

日本全国のため池や水路などに見られる沈水植物。ときにオオカナダモやコカナダモと見分けがつきにくいこともある。



シュレーゲルアオガエル 体長3~5cm

アマガエルとよく似ているが、口先がとがっていて、ニホンアマガエルのような鼻から目を通る黒い模様がない。



タガメ 体長5~6cm

池や田んぼにおいて、小魚やカエルなどを捕らえ、消化液で肉を溶かして吸う。数が少なくなってしまう水生昆虫の王様。



ニホンアマガエル 体長3~4cm

日本を代表するカエルの一つで、鼻筋から目、耳にかけて褐色の太い筋が通っているのが特徴。



ショウブ 高さ50~120cm

5~7月に湿地で棒状の花のかたまりをつける。植物全体に香りが強く、薬にも使われる。



サナエトノボの仲間 体長3.7~8.8cm

黒い体に黄色または黄緑色のしま模様がサナエトノボ類の特徴で、日本に27種が知られている。（写真はコサナエ）



サギの仲間 全長55~65cm

シラサギと称されるダイサギ、チュウサギ、コサギが知られている。ドジョウ、フナ、ザリガニなどを食べる。（写真はコサギ）

